

新技術・情報名	タマネギ生産者の堆肥の利用動向				
[要約] タマネギ生産者には堆肥を利用したい、または堆肥の利用量を増やしたいという潜在的需要があるため、堆肥価格や散布機械の問題が解決できれば、堆肥利用が促進できる可能性がある。					
畜産試験場・中小家畜部・畜産環境研究担当			連絡先	0954 - 45 - 2030 chikusanshiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	畜産専門部会	専門	畜産環境	対象	全畜種

[背景・ねらい]

佐賀県における露地野菜の代表品目であるタマネギについて、家畜ふん堆肥（以下堆肥）の利用促進のための情報を得ることを目的として、白石地区のタマネギ生産者の堆肥の利用状況および利用についての問題点、今後の意向等についてアンケート調査（101名）により明確化する。

[成果の内容・特徴]

1. タマネギ生産者のうち約三分の一は堆肥の利用がない。堆肥利用者のうち約半数は苗床・本田の両方に利用しているが、残りは苗床か本田のどちらかのみ利用している（図1）。
2. 現在、堆肥を利用している生産者のうち、約6割は現状の散布量でよいと考えているが、約4割は現在よりも散布量を増やしたいという希望を持っている（図2）。
3. 堆肥を利用していない生産者のうち、約8割は堆肥を使ってみたいという希望を持っている。また、使いたい散布量がわからないという生産者が半分を占めている（図3）。
4. 堆肥を利用するにあたって最も問題になっていることは、堆肥利用の有無に関係なく「堆肥の値段」と「散布機械」を挙げた回答者が多く、二つの問題がタマネギ生産者の堆肥利用への課題の特徴である（図4）。

[成果の活用面・留意点]

1. タマネギ生産者に対する堆肥利用推進への問題解決の参考資料となる。
2. 回答を頂けなかった質問項目もあるため、全体の回答者数と質問項目で回答数が異なる場合がある。

[具体的データ]

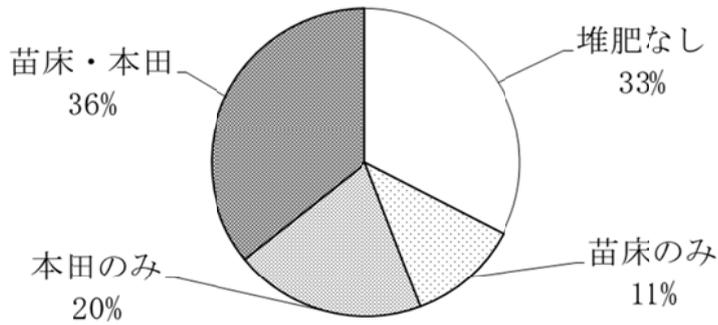


図1 タマネギ生産者の堆肥利用割合 (回答数95)

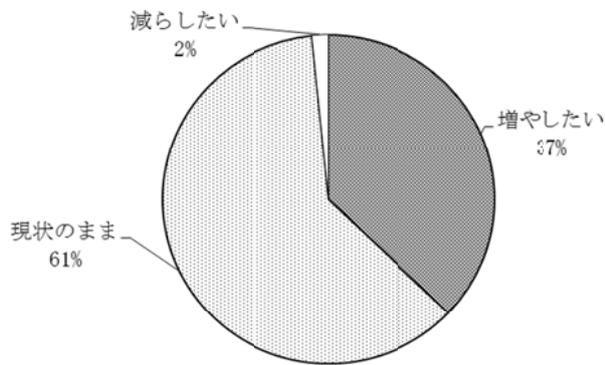


図2 堆肥利用者の今後の散布量の希望 (回答数62)

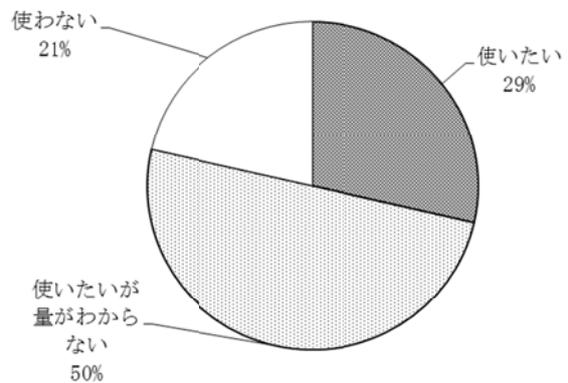


図3 堆肥不利用者の今後の希望 (回答数28)

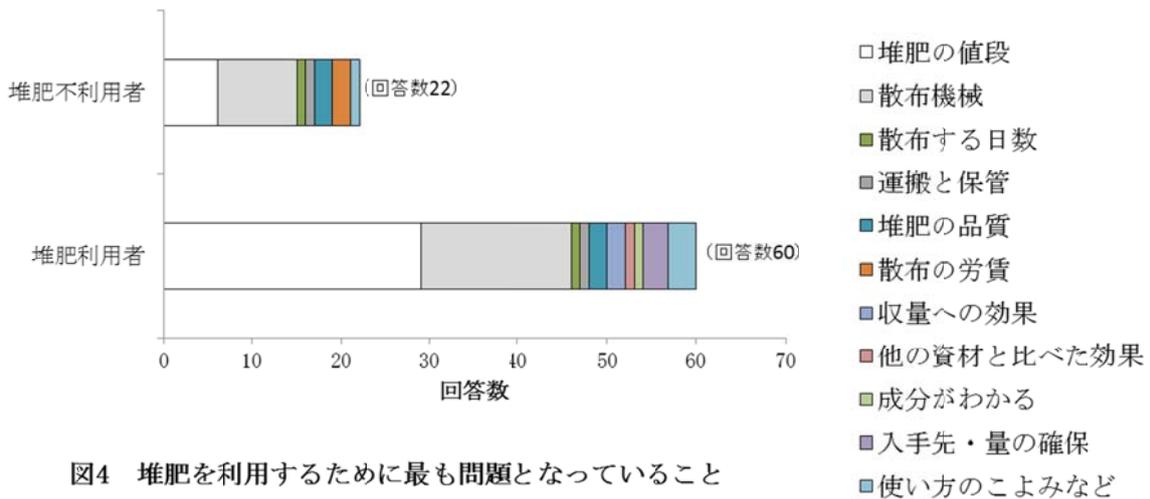


図4 堆肥を利用するために最も問題となっていること

[その他]

研究課題名：生産量抑制および減容化を目指した堆肥発酵促進技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2014～2016年度

研究担当者：坂井隆宏、脇屋裕一郎、永瀨成樹